

**家庭と学校が協力し合って
変化の激しい社会を前向きに捉えたくましく生き抜く子供と一緒に育てていきましょう**

1 「個別最適な学び」及び「協働的な学び」**の実現のために**

- (1) ICTを活用し個に応じた指導の充実を図ります。また、一人一台端末を、児童生徒が気付きや考えを記録し、思考過程を振り返ることができる「思考ツール」として日常的な活用を図ります。
- (2) 他者と議論する経験をとおして、多様な価値観や考えに触れる機会を設けます。
- (3) 学校や地域の実態を踏まえた教育課程を編成、実施します。また、指導力の向上に努めます。

2 道徳性を高める**「豊かな心」の育成のために**

- (1) 児童生徒自身が考え、他者と議論する中で、より多面的、多角的な考え方ができるような道徳の授業を実施します。また、お互いのよさを認め、伸ばし合っていく授業づくりを進めます。
- (2) 暴力行為やいじめ、不登校、虐待等に対して、組織的に対応する体制を充実させます。
- (3) 教育相談活動の充実と関係機関等との連携を図ります。

**学校の
取組****3 生涯をたくましく生きるための****「健やかな体」の育成のために**

- (1) 定期健康診断等をとおして、健康な体づくりを推進したり、ブラッシング指導などをとおして、むし歯予防を推進したりします。
- (2) 生涯にわたって心身の健康を保てるよう、体育活動の充実と体力向上に向けた指導、また思春期教育も推進します。
- (3) 危険を予知、予測し、的確に行動できる能力の育成を図ります。

4 共生社会の形成に向けた**「特別支援教育」の充実のために**

- (1) 個別の指導計画を活用し、教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を充実させ、一人一人の能力や可能性を伸ばす教育をします。
- (2) 関係機関と連携し、早期からの教育相談や就学相談など支援体制の充実を図ります。
- (3) 共に学び、共に育つ教育を推進し、相互に人格と個性を尊重し、認め合い、支え合う学校づくりを目指します。

ご家庭での取組例**(1)生活のリズムを整えましょう**

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」など、規則正しい生活習慣や食習慣を身に付けさせ、たくましい体をつくりましょう。
- ②テレビや携帯電話(スマートフォン)、ゲームの時間などのルールを、お子さんと話し合ってつくり、守らせるようにしましょう。また、スマートフォンで犯罪に巻き込まれたり、誹謗中傷や個人漏えいなどによる人権侵害で加害者になってしまったりする恐れがあるなど、子供の発達段階に合わせて、適切な情報を教えるようにしましょう。

(2)家庭学習をする環境をつくりましょう

- ①学習は、集中できる環境も大切ですが、家族が見守っていてくれるような安心できる状態も良い環境だと言われています。家族の協力で学習しやすい環境をつくりましょう。
- ②子供が自分にあった学習時間を決め、毎日継続して取り組めるよう、家庭で協力しましょう。
- ③努力をほめて少しずつ乗り越える手助けをしてみましょう。頑張りを認める言葉かけで、子どもたちは自信をもち、学ぶ意欲を高めていきます。
- ④教育委員会作成「家庭学習の手引き」(児童生徒版リーフレット)、「家庭学習のすすめ」(保護者版リーフレット)もご活用ください。

(3)子供と話す時間をつくりましょう

- ①子供にとって、家庭はほっとできる心のよりどころです。子供の興味関心のある話題について、週に1度はテレビやスマートフォンを見るのはやめて、家庭で話す場を設けてみましょう。好きなことから学びが始まります。
- ②家族でのおすすめの本を教え合ったり、内容を話したりして、読書への関心を高め、豊かな心を育みましょう。
- ③新聞記事やニュースなどを話題にして、社会への目を向けましょう。また、社会への関心とともに、その厳しさにも触れる中で、自立や責任感などのたくましい心を育みましょう。

(4)いろいろな人とかかわる機会をつくりましょう

- ①家族、友達以外のさまざまな人(地域の人など)とかかわる機会をもってみましょう。相手の話を否定せず最後まで聞く、自分の考えを言葉にして伝える場を積み重ねていく中で、相手を大切に思う心や、いじめのない社会がつくられ、また、将来の生き方を学ぶきっかけが生まれます。
- ②将来のことや働くことについて話してみましょう。これまでの価値観にとらわれず、様々な生き方があつること、興味関心のあることから将来の生き方を考える一歩にするなど、家庭で一緒に考えていく場をもってみましょう。